

平成 22 年 4 月 17 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19530173

研究課題名 (和文) 奢侈と文明—18 世紀イタリアからの視角—

研究課題名 (英文) Luxury and Civilization: a case study of the Eighteenth-Century Italy

研究代表者

堀田 誠三 (HOTTA SEIZO)

福山市立女子短期大学・生活学科・教授

研究者番号：40144109

研究代表者の専門分野：イタリア思想史

科研費の分科・細目：経済学・経済学説・経済思想

キーワード：18 世紀イタリア、奢侈、道徳論、百科全書、ミリーツィア、マルサス、カニャッツィ、

## 1. 研究計画の概要

(1) イタリアにおける奢侈論の展開過程を、ヨーロッパ諸国との思想の交流に留意しつつ検討し、比較思想史的観点から 18 世紀の思想界で大きな論争をまきおこした奢侈論の思想史的意義を解明する。

(2) イタリアより研究者を招聘し、我が国の研究者とともに、比較史的観点から構成された国際研究集会を開催する。

## 2. 研究の進捗状況

(1) イタリア啓蒙思想のコスモポリタンな性格は、本研究において奢侈論にかかわる以下の 3 点の解明をつうじて、明確となった。第 1 に、奢侈を文明の進歩の原動力とする見解の根拠に『百科全書』序論が利用されていること、第 2 に、エルヴェシウスの見解からの示唆もあって、奢侈を社会的剰余ととらえることで、奢侈と文明という問題設定のなかで剰余の社会的分配にかんする議論が可能となったこと、第 3 に、奢侈の概念は社会的剰余の消費から蓄積を見渡す用語として、イタリア経済思想史において重要であったこと、である

(2) 2009 年 9 月 5 日、イタリアより招聘したアルベルト・ネ教授の参加をえて、名古屋大学において国際研究集会「奢侈と文明」を開催した。報告は水田洋「フランコ・ヴェントゥーリについて」、橋本周子「開かれた社会か閉じられたサロンか？ ブリア=サヴァランの『味覚の生理学』の読解」、堀田誠

三「F.ミリーツィアにおける奢侈と建築」、マヌエラ・アルベルト・ネ「奢侈と民主主義 B. フランクリンとフランス経済思想の相互交流」、渡辺浩「奢侈、商業、徳 徳川日本における政治的知的論争」であった (使用言語：英語)。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

「研究の進捗状況」に見られるように、奢侈論の展開過程が具体的に解明され、国際研究集会の開催も実現することで、研究計画の骨子はおおむね達成されている。

## 4. 今後の研究の推進方策

(1) 国際研究集会の成果を、「奢侈と文明」という問題設定にたいする「18 世紀イタリアの視角から」という方法の有効性の検証に留意しつつ、報告書にまとめる。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕 (計 1 件)

①堀田誠三、『百科全書』リヴォルノ版について—オーベールの手紙から—、福山市立女子短期大学紀要、第 37 号、2010 年、29-36、査読有

〔学会発表〕 (計 3 件)

①堀田誠三、Luxury and Architecture in F. Milizia, 国際研究集会「奢侈と文明」、2009年9月5日、名古屋大学

②堀田誠三、イタリアにおけるマルサス受容の一断面（セッション マルサス主義の国際的普及）、経済学史学会第73回全国大会、2009年5月31日、慶應義塾大学

③堀田誠三、『百科全書』イタリア版について－オーベールの手紙から－（共通論題『百科全書』研究の新地平）、日本18世紀学会第29回全国大会、2007年6月17日、東京工芸大学

〔図書〕（計 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕